WAFCA

第 10 回中国雲南省フレンドシップツアー報告書

作成：織田 優佳（インターン）

２０１９年５月

目次

1.　ツアー目的・参加者・日程　P. 1

2.　雲南大学訪問　P. 2

3.　華夏中等専業学校訪問　P. 4

4.　班別市内観光　P. 6

5.　観光　P. 9

6.　振り返り会感想　P. 11

7.　アンケート結果　P. 13

8.　総括　P. 19

1. ツアー目的・日程・参加者

目　的：WAFCA 活動を支える日本の会員と中国の障がい児・者、学生との顔の見える交流活動を通じて、日中友好と多文化理解を深める。

日　程：2019 年 3 月 21 日（木）～26 日（火）

参加者：会員 10 名（社会人 7 人、学生 3 人）、スタッフ 2 名、理事 2 名、旅行会社 1 名、WAFCA タイ理事長、スタッフ（一部参加）4 名

【スケジュール詳細】

日にち	曜日	内容
3/21	木	名古屋　⇒上海　⇒昆明
3/22	金	雲南大学訪問
		日本語の授業に参加、キャンパスツアー、食堂で昼食
		雲南大学日本語学科学生との交流会
3/23	土	華夏中等専業学校訪問
		午前：WAFCA 車いす＆奨学金寄贈式
		華夏中等専業学校生徒によるパフォーマンス
		雲南大学・日本参加者によるパフォーマンス
		（バルーンショー、日本紹介クイズ、日本の歌など）
		グループに分かれて染め物・焼き物・ハンディクラフトクラスに参加
3/24	日	華夏中等専業学校生徒・雲南大学学生と共に昆明市内観光
		（グループに分かれて）
		グループに分かれて、昆明市内散策・ショッピング
		3 日間の感想を発表（昆明市内レストラン）→夕食・お別れ会
3/25	月	【広大な自然と多様な民族・食文化を味わう日帰り旅行】
		滇池(テンチ)、民族村など昆明市内の観光スポットを散策
3/26	火	昆明　⇒上海　⇒名古屋

2.　3 月 22 日　雲南大学訪問

〇雲南大学概要

1923 年に創立された総合大学で、中国西南地方で最大規模を誇る名門校。少数民族の学生も多く在籍している。文系から理系まで幅広い学科があり、本科は 85 専攻に分かれ、在校生数は本科生が 1 万 5000 人規模、大学院生が 1 万 7000 人規模となっている。また、国際学術教育交流センターを設立して留学生の招致、学習及び生活の管理等に取り組み、これまでに 20 か所に及ぶ国から留学生を受け入れた実績があり、現在では常時 200 名以上の留学生が在籍している。外国語学部には、英語、フランス語、日本語の 3 つの専攻があり、日本語学科には日本へ留学経験を持つ学生もおり、日本語レベルも高い。しかし、日本への留学を希望している学生が多い一方で、雲南大学に在籍している日本人留学生は 3 名程度。また、雲南省は日本人観光客も極めて少ないため、日本語学科の学生は今回の交流活動を楽しみにしていた。

〇活動内容

① 大学一年生の会話の授業へ参加
② キャンパスツアー
③ 学校の食堂で食事
④ 交流会
（バルーンアートづくり、タイ族の伝統の笛の披露、太極拳、班別行動のルート決め）

① 大学 1 年生の会話の授業へ参加

日本語を習い始めて半年の大学 1 年生の授業に参加した。生徒の人数は約 20 人。中国人学生 2 人と日本人参加者 1 人でグループになり、お互いの自己紹介を行い、質問をしたり、雑談をしたりし、最後に中国人学生がそれをまとめて、日本語で発表するという形で行われた。1 つのグループに雲南大学の 3、4 年生の学生、または大学院生が 1 人ずつついてくれたため、1 年生の学生はわからないところを先輩に聞くこともでき、先輩と連絡先を交換している学生もいた。日本語を勉強し始めて半年とは思えないほど学生の日本語レベルは高く、熱心に勉強していることがよくわかった。

授業の様子

発表の様子

WAFCA 会員さんと雲南大学学生さん

② ③　キャンパスツアー・食堂

雲南大学のキャンパスはスケールも大きく、ところどころ南国のリゾートのような場所もあった。学校の中には湖やバラ園など見どころがたくさんあり、一般にも開放しているため、多くの観光客が訪れていた。今回私たちは時間がなく行くことができなかったが、雲南大学の図書館は中国で権威のある建築の賞をとった建物で有名である。

キャンパスツアー後は雲南大学学生と一緒に食堂で食事をした。カードにお金をチャージしてご飯代を払う形式で、種類がとても豊富で 100 種類以上あるようだった。参加者の皆さんもおいしいと好評であった。

キャンパスの様子

食堂の様子

集合写真

④　交流会

交流会は 24 日の班別行動の班ごとに座り、自己紹介から始まった。一緒にバルーンアートを作ったり、お菓子を食べたり、太極拳を体験したりしながら親睦を深めた。雲南大学の学生が太極拳の先生を呼んでくれたり、タイ族の笛を演奏してくれたり、雲南の名産を用意してくれたりと、彼らのおもてなしに心を打たれた。そして、この日一番大変だったことはやはり、24 日の班別市内観光のルート決めであった。班別市内観光のコンセプトは「普段なかなか外出することのできない華夏中等専業学校の学生がいきたい、やりたいことを叶えること」。普段障がいのある人と交流をしたことのない雲南大学の学生は、「地下鉄にエレベーターがあるのか」「車いすでバスが乗れるのか」など、昆明市内にはよく行くが知らないことが多いと気づき、どこの班もルートを考えることに苦戦していた。班別行動に関しては、P.　7 で詳しく記す。

バルーンを持って集合写真

交流会の様子

民族楽器の演奏

3.　3 月 23 日　華夏中等専業学校訪問

○概要

華夏中等専業学校は中国で一番初めに作られた特殊職業訓練専業学校である。1996 年に開校し、現在は学科と職業訓練の高校過程（3 年）、短期大学課程（2 年）に肢体不自由、聴覚障がい、視覚障がい学生 843 名、教員 123 名が在籍。生徒の 30%が少数民族、69%が農村部出身、89%が肢体不自由である。入学試験の倍率は高い。学生は、美術や、コンピューター応用や電子商取引、また美術や伝統工芸品の製造について学んでおり、自立に向け努力している。WAFCA では華夏中等専業学校を対象として 5 年間、車いす寄贈や奨学金提供を行っている。

○活動内容

① WAFCA 車いす＆奨学金寄贈式（WAFCA 活動紹介）
② 華夏中等専業学校によるパフォーマンス
　日本人参加者・雲南大学学生の合同パフォーマンス
③ 染物・手工芸・粘土のクラスに分かれて授業体験

① WAFCA 車いす＆奨学金寄贈式

9 人の学生に車いすの寄贈、50 名の学生に奨学金の寄贈を行った。奨学金をもらった生徒は、「車いすは私たちの人生の伴侶で、友達です。そして、その車いすを寄付してくださる WAFCA のことを私たちは友達だと思っています。WAFCA の活動への感謝し、自立し社会に貢献していきたいです。」とスピーチで語っていた。障がいがあっても、自立しようと努力し、前向きな学生に多くの日本人参加者や雲南大学の学生は心を打たれていた。

全体風景

奨学金贈呈

奨学生代表挨拶

② 華夏中等専業学校によるパフォーマンス

日本人参加者・雲南大学学生の合同パフォーマンス

聴覚障がいの学生の民族舞踊のパフォーマンスはとても迫力があり、耳が聞こえていないとは思えないもので、みな感銘を受けていた。そのほかにも、様々な障がいのある生徒たちが歌などのパフォーマンスを披露してくれた。みんな恥ずかしがる様子もなく、とても生き生きとしていたことが印象的であった。ここでも、障がいをかかえながらも自分の好きなことを楽しむ彼らの強さが見られた。

また、日本人参加者と雲南大学の学生共同で歌、バルーンパフォーマンス、クイズ、浴衣のデモンストレーションを行った。日本文化をあまり知らない彼らに少しでも日本の文化を伝えようとユーモアを交えたクイズなどを出していて、華夏中等専業学校の学生たちも楽しんで参加し、景品の日本のお菓子をもらって喜んでいた。

聴覚障がいの学生のパフォーマンス

合唱の披露

日本人参加者によるクイズ

③ 染物・手工芸・粘土のクラスに分かれて授業体験

3つのクラスに分かれて授業体験を行った。主に生徒は聴覚障がいがあり、手話で会話をしていた。参加者が口をそろえて言っていたことは「やさしい」ということである。手工芸のクラスでは、ミシンを使い、小さなカバンを作っていたが、なかなかうまく作れない日本人の参加者に対し、たくさんの生徒が駆け寄って手伝っている光景がとても印象的であった。また、雲南大学の生徒に手伝ってもらいながら、華夏中等専業学校の学生から手話を教えてもらっている参加者の方も多かった。

華夏中等専業学校の学生の作品

手工芸体験風景

藍染クラス

4.　3 月 24 日　班別市内観光

交流プログラム最終日は５つの班に分かれて昆明市内観光を行った。1 グループの人数は 9 名程度で、華夏中等専業学校の生徒 2 名（車いすの学生１名、松葉杖の学生１名）、雲南大学の学生３～４名、日本人参加者２～３名である。午前 10 時ごろ昆明市内のホテルに集合し、顔合わせと日程確認を行った後、それぞれのグループごとに市内観光をした。午後 4 時に集合場所と同じホテルに集合。その後反省会を行った。

〇コンセプト

今回のグループ別市内観光のコンセプトは①「普段なかなか外出することのできない華夏中等専業学校の学生がいきたい、やりたいことを叶えること」②「参加者の方に障がいのある人の不便さを知ってもらうこと」とした。そのために、①のコンセプトにおいては事前に班別市内観光に参加する 10 人の華夏中等専業学校の学生にアンケートを実施した。内容は以下６項目。

１．昆明市内で行きたいところ　2. どんなことをしたいか　3. 車いすに乗っているか
4. 松葉杖を使っているか　5. 不安なことは何か　6. 一番楽しみにしていることは何か

1 の質問の回答は圧倒的に「昆明動物園」が多かった。階段も多くあり、車いすでの移動が大変のため、なかなか行けないようである。2 位以下は滇池や野生動物園、古滇王国など様々であった。2 の質問では「交流を楽しみにしている」という回答が多く、そのほかに「みんなでゲームをしたい」「映画を見たい」などの意見があった。5 で一番多かった回答は、「グループのメンバーと離れてしまうこと」という意見だったが、「特に不安はない」という回答も多くあり、今回の交流活動で特に不安がなく、楽しみのほうが大きい学生が多いことが分かった。6 の質問ではやはり、観光よりも、日本人や雲南大学の学生との交流をとても楽しみにしていることが分かった。

また、②のコンセプトのためにグループに 1 枚、昆明市内のマップを配り、車いすや松葉杖を使う人たちにとって不便だと感じたところにマークをつけてもらい、アクセスマップを作成してもらった。

〇スケジュール決め

上記のアンケート結果を踏まえ、雲南大学の学生と日本人参加者に 3 月 22 日の雲南大学での交流会時に大体のルートとスケジュールを決めてもらい、班別市内観光の当日に臨んだ。ここでは、地下鉄やバスなどの公共交通機関に車いすで乗れるのか、動物園のバリアフリー状況、車いすを使う人や松葉杖を使う人がグループ内にいて、このスケジュールで回ることが出来るのかなど様々な質問があった。そして、昆明市内に日頃からよく行く雲

南大学の学生もそのことについて把握していない、普段から目を向けていないことがわかった。スケジュール決めはおそらく参加者にとって大変なことだったと思うが、「全然知らなかった」ということに気付いただけでも、有意義なものだったと感じる。

〇振り返り会

班別市内観光終了後、ホテルに集まり、それぞれのグループで市内観光の振り返りを行い、それぞれの立場からの感想や気づいたことをグループの中で代表３名（日本人参加者１名、雲南大学の学生 1 名、華夏中等専業学校の学生１名）を選んでもらい、全員の前で発表してもらった。

【発表内容】

◇雲南大学学生の声

・動物園に行き、車いすや松葉杖を使う彼らの大変さがよくわかった。
・初めて車いすを押して本当に大変だった。身体が自由な私は今回の活動を通し、初めて市内が不便だと感じ、今ある自分の自由な生活は当たり前のものではないと気付いた。
・翠湖公園に行ってバリアフリーがほとんどなくて、障がい者とって大変不便だった。歩道にもバイクや自転車が置いてあり、危険に感じた。初めて、中国人は思いやりがないということに気付いた。バイクが止まってほしいときも全然止まってくれなかった。

◇華夏中等専業学校学生の声

・この活動に参加できてとても幸せだった。私自身、外に出るチャンスが少ないので、今回色々な場所に行けたことがとても嬉しかった。一番嬉しかったのは、友達ができ、日本語を学べたこと。またこのようなイベントがあるといいなと思う。
・この活動を通して、みんなと出会えたことがとても嬉しい。日中友好というものを感じた。市内観光はとっても疲れたけど、それ以上にみなさんの優しさに触れ、心が温まった。みんなありがとう。

◇日本人参加者の声

・雲南の気候と人の温かさに驚いた。活動を通し、中国人の団結力に感心した。力を合わせればいろんな壁を乗り越えられると思った。
・バリアフリーに対する人の教育が必要だと感じた。点字ブロックを横切るようにバイクを停めたり、歩道をバイクで走ったり。歩きたばこで歩く人の横を車いすで通るときはヒヤッとした。

【雲南市内で危険だと感じたところについて】

・陥没しているところが多く、車いすが通れない

・歩道と車道の色が同じで段差に気付けない
・高すぎる段差が多くある。
・歩きたばこが危ない
・バイクが置いてあり、通れないところが多かった
・地下鉄は最先端技術できれいだと思うが、エレベーターの配置があまり良くない、遠すぎた。車いすや老人にはかなり不便
・繁華街の店の前のほとんどに段差があった
・道が狭く、車が多い

〇WAFCAT スポンタム理事長からの言葉
・バリアフリーは障がい者のためだけでなく、すべての人のためのもの。子どもやお年寄り、外国人、そして障がいのある人みんなが暮らしやすい街にしていくためには、みんなで考え、共に行動を起こしていくことが必要です。

〇それぞれの班の集合写真

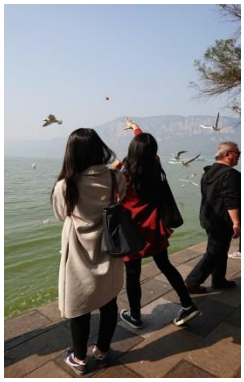
〇振り返り会の様子

5.　3 月 25 日　観光

最終日は日本人参加者で昆明市内の観光地に行った。

〇観光場所
・滇池
・雲南民族村
・お茶試飲会
・公園で花見
・スーパーで買い物

〇滇池
滇池（てんち）は昆明市の西南部に位置しており、雲南省最大、中国国内第 6 の大きさを誇る淡水湖で「五百里滇池」と称えられている。歴史文化を持つ名所旧跡が周りに多いことから「高原の明珠」とも称され、現在では滇池風光名勝区の名で重要風景名勝区に認定されている。一番の絶景スポットは西山と民族村の間のロープウェイを上がり、西山の絶壁からから見る滇池である。また、大観公園と民族村の間には観光船が運航していており、滇池巡りをすることもできる。


滇池でカモメに餌やり

近くのお寺

郷土料理

〇雲南民俗村
雲南民族村は、雲南省に住む 25 の少数民族の文化、風俗を展示、紹介している民族文化テーマパークである。敷地内には各少数民族の村が作られ、民具や衣装が展示されている。また、園内では定期的に各民族の伝統儀式や民族舞踊が行われており、大理三塔寺や、タイ族の仏塔の模型などもある。現地に行ってもなかなか見られない歌や踊りが鑑賞できるのが雲南民族村の魅力。

民族衣装を着て記念撮影

民族伝統刺繍

少数民族の食事も楽しめる

〇お茶の試飲

〇公園の雲南桜

次ページへ

６． 3 月 25 日　振り返り会コメント

　すべてのプログラム終了後、日本人参加者の皆さんと食事を食べながら反省会を行った。それぞれの意見は以下である。

・北京で 1 年半、留学していたが、雲南は北京とは全く違った。一言でいうと、雲南の人は優しい、雲南大学の学生は素晴らしい、そして、雲南は美しい。この発見もここに来なければ分からなかった。みんなに（他の学生達に）１度、来てほしい。

・あまり知らずに参加したけれど、すごく楽しかった。CCC(大学内のボランティアセンターに今までは友達の後ろをついて行っていただけだったけど、これから、ボランティアをしに行こうと今回のツアーを通して思った。

・障がいがある人用のトイレやお風呂があること、日本のハード面が当たり前だと思っていたが、雲南に来て、日本のハード面がとても整っていることを知った。ただ、ソフト面に関しては雲南の学生さんはすごい！階段や、道の段差でも進んでサポートしてくれて、毎日本当に嬉しいのと感謝の気持ちで過ごしてきた。
最初、インドネシアに行く話で初めての海外体験を考えていたが、今は中国で良かったと思っている。プログラム内容はすごく勉強になったし、参加する前は、代金が高いと思ったが、参加してみると内容がいいので、他の学生にもアナウンスして参加してもらいたい。

・雲南大学の学生と華夏中等専業学校の学生の学ぶ姿勢や努力、ポジティブな考え方などが素晴らしいと思った。障がいがあっても、なくても関係ないと思った。物事に取り組む姿勢は同じだと感じた。だからこそ、「日本人だから」「中国人だから」といろいろな物事を決めつけてしまうのは違うと思った。今回、ツアーの参加者メンバーが学生と社会人が混ざることで、色々な学びがあった。この素晴らしいツアーをもっと大学生に広報できないか？大学が協定を結んだりできないのか？

・確かに今回は素晴らしいプログラムだった。私たちにとって、学生たちと日本語でコミュニケーションが取れ、意思の疎通が図れたので、大変良かった。
今までも副理事長として、ツアーに参加し、車いす贈呈式に参加してきたが、雲南大学の日本語が分かる学生さんが入ることで、さらに華夏専業学校の生徒たちの要望に応えることができたと思う。三者にとってもとても良かった。今後、プログラムをどうしていくかは、また WAFCA で考えていってほしい。
（雲南大学の日本語の授業の内容に関しては、学生の能力が高いのでもう少しコミュニケーションを取り合う内容ができたのではないかと思う。）

・今まで、タイやインドネシアのツアーに参加してきたが、今回のツアーは一味違った。
雲南大学の学生も華夏中等専業学校の学生も素晴らしかった。
今回参加した学生もみんないい子だった。車いすでチャレンジする日本人学生の参加者、それを支える参加者のみんな。他の二人の学生の子も、一日が終わると「今日も色々助けてもらってありがとうございました。」と、わざわざお礼を言いに来てくれる。学生さんが参加したことで、自分たちも気づくことがあったし、世代間の交流ができていることが、今回のツアーのいいところだとも思う。

・初めて WAFCA のツアーに参加したが、本当に素晴らしいプログラムだった。雲南大学学生と華夏中等専修学校の学生の学ぶ意欲や日本人への優しさ等が素晴らしかった。
このプログラムのいい点は雲南大学の学生さんと知り合い、信頼関係をつくりながら、華夏専業学校の生徒さんへ何ができるかを一緒に考える。そして、３日目に三者みんなで一緒に過ごすという内容になっていること。
雲南大学学生さん、華夏の子たちがバラバラのプログラムだと、ここまでの満足感は得られなかったと思う。
また、中国に留学経験のある参加学生の子も雲南は自分たちの知っている中国とは違ったと今回のツアーを通して感じ、たくさんの友達もできた。車いすで参加した学生の子もそう言っている。これが、草の根活動。古く戦争を体験させてしまった時代から、このように、みんながお互いを知り合って仲良くすることで、国際交流し、いい未来につながっていくと思う。
次のツアーに学生さんが参加してもらえるよう、報告会をしたい。

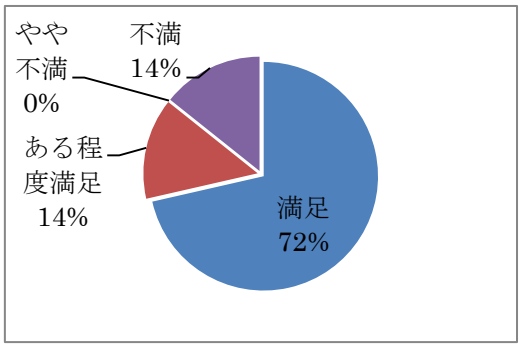
7.　アンケート

ツアー終了後日本人参加者、雲南大学学生、華夏中等専業学校学生それぞれにアンケートを実施した。

〇日本人参加者アンケート結果

1.ツアー全体について

1）ツアー全体について

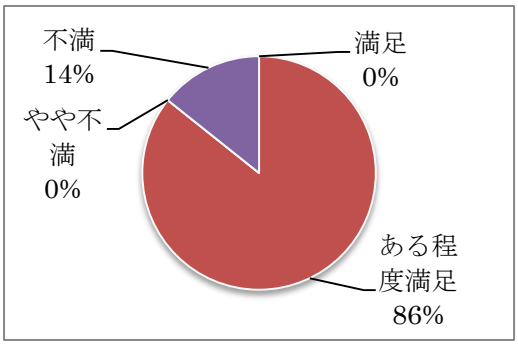


【主な意見】

・現役で仕事をしていると休みが取れる
ギリギリの範囲

・長いようで短かった

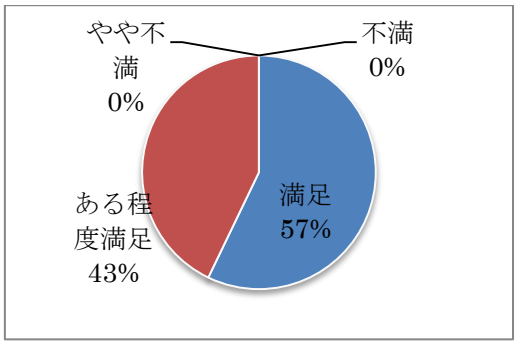
2）ツアー代金



【主な意見】

・学生には高い

3）ツアー全体の行程



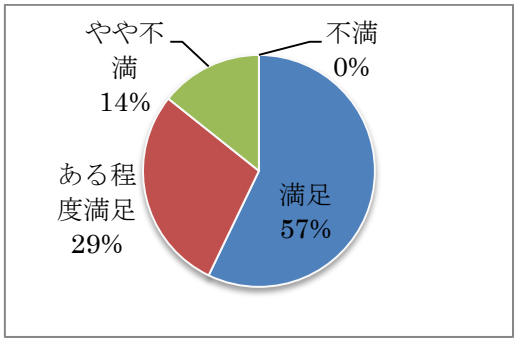
【主な意見】

・もう一日観光があってもよかった、棚田を見たい

・パフォーマンスについてもっと事前準備が必要

2.　ツアーの活動内容について

1）ツアーを通しての雲南省での WAFCA の活動への理解の深まり

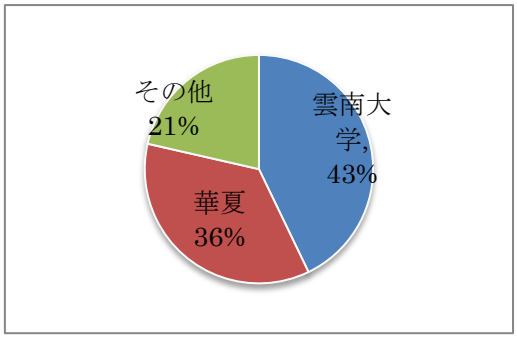


【主な意見】

・華夏中等専業学校と共同で車いす社会普及活動に貢献していることがよくわかった

・車いす奨学金寄贈の実態や子供たちのその後の様子や今後の活動が具体的に見える形での説明があるともっと理解が深まる

2）現地の人との交流でよかったところ（複数回答可）



【主な意見】

〇雲南大学

・多文化共生の多くを学べた

〇華夏中等専業学校

・学生の素晴らしいパフォーマンスに感動

・先生方の指導のすごさ

・普段関わらない子たちと関われたし、彼らは一生懸命将来のために努力していることがよくわかった

3）気付いたところや改善点

・学生同士の交流をもっとすべきではないか。参加者にもっと学生を増やせると良い

・交流会でのステージの事前準備をもっとしたかった（華夏の学生のパフォーマンスに答えられるくらい）

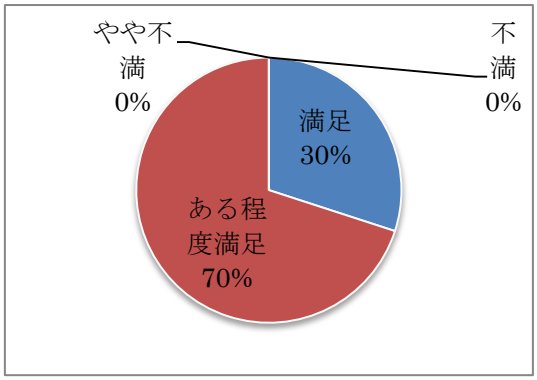
・雲南大学での会話の授業を自己紹介だけでなく、もっと深堀した内容にしてはどうか。
　そう思うくらい彼らの日本語レベルは高いと感じた。
・自由行動の計画自体は、グループのメンバーの特性に合わせて予定が組めたり、変更出来たりできたから良かったが、なんかあったときの対応、保険は？
・事前説明会での車いすの仕組みと使い方の指導が必要

４）その他感想

・学生中心の交流でとてもフレンドリーな中国での交流が出来た
・従来の交流では味わえない体験と真の交流に近づけた感じ
・ハプニングもあったけど、雲南大学の学生の優しさに触れ、絆が深まった
・中国の学生の直向な行動や考え方に驚きを隠せなかった、時代は変わったとおもった

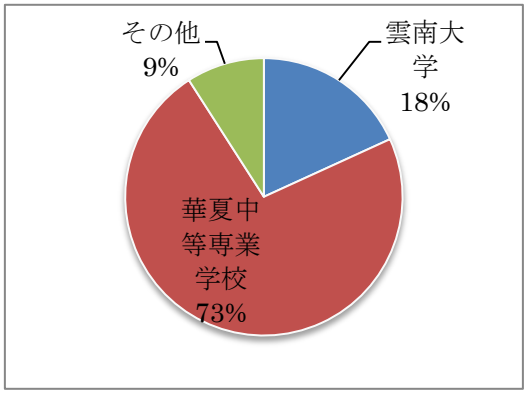
〇雲南大学学生アンケート結果

1）ツアーを通して、WAFCA への理解が深まったか。



【理由】
・車いすだけでなく、心の温かさも与えていると感じた
・副理事長の説明で WAFCA の活動内容がいろいろわかった
・WAFCA の世界への貢献に感心した
・交流の過程の中で、WAFCA の業務内容だけでなく、活動の意義も知れ、障がい者の生活や学習状況も知れ、とても有意義だった

2）交流活動でよかったところは？　（複数回答可）



【理由】

〇雲南大学

・面白い日本人と友達になれ、楽しかった

（なお、雲南大学を選んだ学生は、２，３日目の華夏との活動に用事があって参加不可）

〇華夏中等専業学校

・聴覚障害の学生の踊りのパフォーマンスに本当に感動した

・学生たちが勇敢・積極的な生活態度に深く感動した

・障がいがあるけど、みんな自分なりに努力して生活を送っていた

3）日本人参加者に伝えたいこと

・私は日本語が上手ではないけど、皆さんにたくさん助けてもらった。また会いたい。

・中国のいいところを周りの人にたくさん伝えてほしい

・優しい皆さんにあえて本当に良かった

4）華夏の学生に伝えたいこと

・蘭さんがずっと自分で車いすを押したいと言っていた。彼女の自立心は私に深い印象を与えた

・彼らは歩行が不便でも疲れたとは一言も言わなかった

・身体障がいがあっても、熱意をもって、前向きに生きている彼らの姿勢から学ぶことがたくさんあった

5）障害のある人にも優しい街づくりに必要なことは？
　そのためにひとり一人ができることは？

・オートバイや車を歩行者道に置かない。歩行者天国を作る

・地下鉄の駅にもっとエレベーターを設ける必要がある

・バリアフリーの完備、政府にバリアフリー完備部門を作る

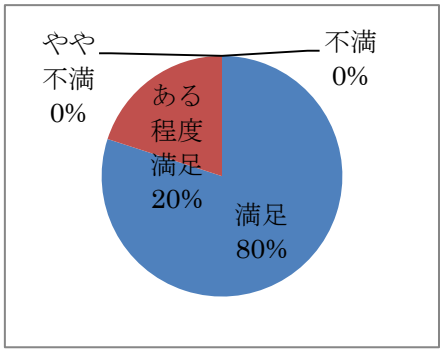
・多くの人に障がい者のこと（生活や学習状況）を知ってもらう
・障がいを持った人を一人一人が尊重し、平等に付き合い、彼らの気持ちを体得する
・私自身勉強と努力を通して、いつか政府に意見を出し、政府の助け（援助）を求めたい

6）今後の活動へのアドバイス
・お互いが深く知りあうための面白いゲームやパフォーマンスを増やしてはどうか
・もっと面白い観光地にもいってほしい！
・体調管理について

7）その他
・このような活動をもっとふやしてほしい
・車いすの取手が低かった。もっと押す人への配慮を
・有意義な三日間をありがとう
・将来、障がい者の子たちを日本に連れて行き、彼らに違う文化や生活を味わってもらいたい

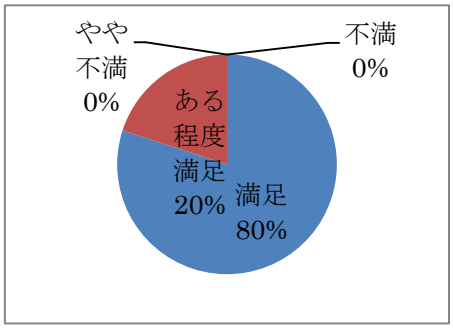
○華夏中等専業学校生徒へのアンケート結果

1. この活動を通しての WAFCA への理解度



・活動を通して、WAFCA への理解は深まったけど、まだ深いところまでは知らない
・交流のおかげで、日本の文化を知ることができた

2. この活動への満足度



・今までしたことのない経験ができた
・行きたかったところに行くことができた
・日本の文化を知ることができた
・友情を感じることができた

3.　日本人参加者と雲南大学の学生に伝えたいこと

・皆さんの助けのおかげで、自分の見識を広げることができた、本当にありがとう
・ずっと私たちのお世話をしてくれて、気にかけてくれて、私たちの期待を超えて、皆さんと遊べたことは楽しかった
・もっと皆さんと交流したい

４．活動の中で一番楽しかったこと

・階段や、坂道が多くて、普段はいけない雲南大学や動物園に行けたこと
・たくさんの同世代の友達に会えたこと、日本人の友達ができたこと
・どのグループもお互いに助け合って活動していたこと
・夜ごはんをみんなと一緒に食べたこと、振り返り会を忘れることはできない

5.班別行動の際大変だったこと

・階段、坂道がたくさんあったこと（ほぼ全員がこの答え）
・道が整っていなくて、通るのに困難なところがたくさんあった

6.次回の活動でしたいこと

・もっと多くの WAFCA の会員さんと交流して、日本の文化について知りたい
・日本人の方をもっと景色の良い所に連れて行きたい

7.自由記述欄

・次のこのような活動があるなら、もっと階段の少ない所に行きたい。そうすれば、車いすに乗っているクラスメイトも楽になると思う
・もっとこのような活動を増やしてほしい
・もっとたくさん交流したかった、お互いを知る時間をもっと長くしてほしい
・活動内容を増やし、一緒に遊べる時間、勉強できる時間を多くして、私たちに外の世界をもっと教えてほしい

8. 総括

「WAFCA の活動を支える日本人会員と中国の障がい児・者、学生との交流活動を通して、日中友好と多文化理解を深める」という目的は、アンケートの結果と参加者の感想から、達成できたと考える。この活動を通して、日本人参加者は、中国人の優しさに触れ、中国人の障がい者の現状、また、障がいがありながらも目標に向かって努力している姿に刺激を受けた。参加してくれた学生は、今後、日本でもっと積極的にボランティア活動に参加しようと思うと言ってくれたり、授業で今まで興味がなかった「国際福祉論をとってみた」と言ってくれたり、今後生かしていこうとしてくれている。雲南大学の学生は、この活動を通し、初めて障がいを持っている学生と触れ合い、中国のハード面、ソフト面それぞれの課題に気づいた。そして、障がいある学生の努力を知った。それにより、もっと勉強をしていきたいと思ってくれたり、WAFCA の活動に興味を持ってくれたりした。また、華夏中等専業学校の学生さんも初めて日本人や、同世代の中国人学生と触れ合い、視野を広げる良いきっかけになった。日本という外の世界を知り、もっと知りたいと思ってくれた学生も多くいる。また、今まで行きたかったけど、ずっと行けてなかったところにも行くことができた。三者、それぞれ、様々な「気づき」があったと感じ、その気づきを今後に生かしていただきたいと、事務局として強く願っている。そして、これからも、それぞれ連絡を取り合い、来年のツアーでは、今回参加してくれた学生がコーディネーターとして、WAFCA の中国ツアーの運営に携わり、ツアーを盛り上げてくれることを期待する。

また、今回、はじめて「顔の見える交流」ということをメインにツアーを行ったということもあり、改善点も多く挙がっている。費用の面では、約 15 万というお金は学生にとって高く、もう少し安かったら行けたという学生もいる。価格を抑える努力と同時に、多少費用が高くても参加したいと思える内容や、それを効果的に伝える広報を強化する必要がある。そして、事前準備に関しても多くのご意見をいただいた。班別行動の時には一日車いすを押さなければならず、車いすの押し方がわからない雲南の学生や日本人参加者も多く、車いすに乗っている学生の中では怖かったと言っている子もいた。その講習なども行わなければならないと考えている。その他にも、華夏中等専業学校でのパフォーマンス準備ももっと入念に行えていれば、もっと華夏中等専業学校の学生に日本の良さを伝えられたと思う。すべてに関して、「動き出しが遅かった」というのが今回の一番の反省で、事前準備、人集めに影響した。来年度からは、半年前から募集をかけられるくらいの余裕を持った準備をしていかなければならない。

以上